

1グループ（進行役：ばでい 白川 栄義 氏）

① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

サービス提供責任者の支援スキルの向上が課題

月2回、事業所全体会議を開催。食事会、交流イベントでチームワーク高める工夫  
シフトの都合で直行直帰になる場合、FAXやメールを活用し情報共有を図る  
情報共有メインの会議を実施

LINEの活用

② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

他の事業所と話すことで、自分の事業所のことを見直すきっかけとなる

利用者の支援の上で、職種、法人の枠を超えることは大切

ヒントがもらえる

アセスメントのできる専門職が、障がい分野では少ない。医療とのつながりが難しい  
高齢者介護では専門職が細分化されていることは、長所でもあり短所でもある  
直接相手の顔を見て話しをすることで、連携がスムーズにすすむ

③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

これから行動援護を始めようとする場合、実際の現場、支援を見てみたい要望がある  
社会全体に必要性を訴えていく必要がある

専門性を培う必要がある

地域とのつながりも必要。あたりまえに暮らせる地域をつくる必要がある

アセスメント力の向上



## 2グループ（進行役：ライラックヘルパーステーション 箭内 宏行 氏）

### ① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

人手不足、時間が足りないため、引き継ぎに課題がある  
行動障がいに対する職員のスキルアップが課題  
話し合いの機会をもっと増やす必要がある

### ② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

情報交換、ネットワークづくり  
専門機関からのアドバイス、フォローがあるとよい  
外部の勉強会や講師派遣等があるとよい

### ③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

制度の説明を、理解できるようにお願いしたい  
コンサルテーション、アドバイスを受ける機会がほしい  
講師杉田氏の話しにでていた、人材育成、スキルアップの仕組みは望ましい  
フォローアップにより、行動援護対象の方の受け入れやすさにつながっていく



### 3 グループ（進行役：らいとくらぶ 長谷川 秀和 氏）

#### ① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

ラインのやりとりで問題を解決している。特定のスタッフ（仲の良い人たちだけ）で解決してしまうことがある  
グループラインと所内の記録と2重に記録作成している  
スタッフにより捉え方の違いがある（例：運動を公園外出なのか、ジム活動なのか）  
定期的に事業所内に集まり、良い職場づくりをしている

#### ② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

関係者会議による連携の強化（ご本人を中心とした周囲の協力を密に）  
他事業所との壁を感じることもある  
地域とのかかわりを積極的に増やしている

#### ③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

他の事業種の方たちは、行動援護に対し大変であるというイメージをもっているように感じる  
他の事業種の方たちにも、行動援護の大切さややりがい等を伝え、行動援護事業所が増えることを期待  
行動援護サービスを見てもらいアドバイスをもらいたい  
研修会の機会を増やしてほしい  
どこまでの内容でフォローアップに依頼が可能になるのか、詳しく知りたい



#### 4 グループ（進行役：から一ず 佐藤ゴリ 忠峰 氏）

##### ① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

スタッフの入れ替わりが多く、固定が難しい。常に顔を合わせられる機会が少なく課題  
1人仕事が多くなるが、他のスタッフからそれはよくないと意見があった。複数がかかわるシステムづくりに取り組んだ  
退職したスタッフに、「私には無理」と言われた。大きく心に残っている  
人手が足りず、事業所内の兼務状況に負担がかかり、人員配置等の難しさがある

##### ② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

志を共有できる仲間たちと出会えたことが財産。顔のみえるお付き合いが大事  
「先月がんばったで賞」等を設けて、褒められる機会が増えたかもしれない  
重度訪問介護での連携で難しさを感じる。「もっとこうしておけば…」と思うが、想いの共有が難しい

##### ③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

###### 制度理解、障がい特性理解の研修

たいてい行動援護だけでなく、他事業、介護保険もやっている事業所が大半。幅広い層を対象にした研修が必要  
初歩的なものから、熟練の技まで。レベルわけ、段階別の研修体制をつくる必要があるのでは  
札幌市自立支援協議会のヘルパープロジェクトでも、ヘルパー研修の検討を行っている  
研修の情報自体が、事業所、現場の職員まで届いていないことが多い。周知の課題がある  
まだ行動援護を行っていない事業所への、ノウハウ等を伝える研修会があると裾野が広がるのでは  
現場での同行（OJT）で、座学研修で学んだことを実際にどう生かすかを教わる機会が重要  
費用の手厚い助成が必要



## 5グループ（進行役：らいとくらぶ 新居 慶英 氏）

### ① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

月1回会議を実施し、支援方法の統一に取り組んでいる  
特性シートを作成し、見解の統一を図れるようにしている  
人材確保が難しい。若い人がこない。スタッフの高齢化  
困難なケースにどう向き合えばよいか、課題  
引き継ぎが難しい。スタッフ個人の考えの違いもあり、認識の共有の難しさがある  
書類関係の整備が負担  
人手が足りず、会議を開く余裕がない。業務が多く、研修等に参加できない状況がある  
支援計画シート、手順書および記録等、やることが多く大変

### ② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

利用者さんの情報共有、支援内容の統一（支援グッズ等）  
利用者さんの新たな一面が知れること  
事業所が専門性を上げることで、必要なサービスを責任をもって行えるようになる

### ③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

支援内容のばらつきを解消するために、全体に対する方向性を同じくしていく研修が必要  
参加する人、しない人がいるので、参加必須の学習会があってもいいのでは  
実践報告を聞く機会が欲しい



## 6 グループ（進行役：ライラックヘルパーステーション 平木 恵 氏）

### ① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

利用者さんのサービスについて個人でいろいろ思うことがあるが、チームで考える時間がとりづらい  
小さな事業所だと少人数ですぐ話ができる。事務所が他部署と共有のため、連携とりやすい  
行動援護等で2人介護の場合は、ヘルパー間で助け合え、認識の共有を図りやすい  
手順書を作成することで、引き継ぎ、情報共有に活用できている

### ② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

同じ利用者さんを他ヘルパー事業所と一緒に支援をする場合、ヘルパー会議を実施している  
ヘルパー会議は大切であるが、個人のヘルパーさん同士の話し合いが不十分に感じる  
職場交換研修等の機会に他事業所のヘルパーさんにもサービス同行してもらえるとよい  
そのような同行の機会に、一緒にケースについてのアドバイスをもらえるとよい  
職場交換研修で、困難ケースへの向き合い方を学びたい  
1人の利用者さんに対し、関わり方やサービス内容の情報共有ができればよい

### ③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

支援計画シートの作成の仕方、ポイントについて学びたい  
困難ケースのサービス同行支援研修  
制度のこと、記録のこと等、より具体的なことを学べる研修



7グループ（進行役：パーソナルサポートセンターぼけっと 野田 宏 氏）

① 所属事業所（法人）内でのチームづくり等における工夫や課題について

支援に関する話し合いを小グループで行うことで、統一感を意識するように変わったラインにて報告をする場合、反応がないと不安を感じる。レスポンスが大切  
定期会議の際は、飲み物や菓子を用意し、雰囲気作りを大切にしている  
メッセージツールを使用しているが、かならず返信を行い、絵文字を活用している  
言葉つかい、表現方法に気がつかっている。職員同士対等の意識をもてるよう意識している  
大事なことはメールより電話、直接のやりとりの方が伝わるのではと考える  
そのようなコミュニケーションツールは使い分けが重要と感じる  
行動援護は資格要件があるため、ただでさえ人手不足であるが、さらに確保が困難

② 事業所の垣根を越えたつながりについて期待すること

行動援護ネットワークへの参加で、事業所外のつながりが認識できる  
ヘルパー不足に対して、事業所同士でお互い支え合えるようなつながりができればよい  
人材確保が難しいが、ゆるやかな連合体をつくれたよい。余力あるヘルパーが複数に登録する仕組み等  
高齢分野でのケアマネが障がい分野では不在による負担大きい、つながりの中で解決したい

③ 札幌市が検討している行動援護フォローアップ事業に期待すること

各事業所への派遣専門のスタッフがいる仕組みができれば心強い  
フォローアップのスタッフが間に入ってくれることで、事業所間のつながりもできていくと思う  
費用の高さへの心配がある？頼みづらい雰囲気がある？ささいな相談でもいいのか？アフターフォローも頼めるのか？  
行動援護は世間からの認知がなく、啓もう活動が必要  
行動援護従業者養成研修受講の費用負担が大きい。補助があると、事業所として取得をすすめやすい  
行動援護従業者養成研修は基礎の内容でしかなく、さらなる充実を図った上でのフォローアップではないか？  
行動援護の事例や他の事業所の取り組みを参考にするとよいのでは。親御さんとの連携も必要  
フォローアップは1回限りではなく、その後のアフターフォローも行うべき  
札幌市により一般市民への啓もうを行う必要があるのでは



質問① 今回の研修の感想

杉田さんの講話はとても良かったです。共感できる部分多かったです。GWの時間短かったです、少人数だったので、まあまあ話げできた。制度の内容の勉強会もあったら良いのかな…と話をして思った

講話の内容は利用者きれいごとだけではなく現実の難しさが伝わってくる内容だった。たくさん問題提起がなされていて、課題と向き合う気持ちになることができたように思う

「テーマ～連携」という今回の研修について、相談室のあり方や報酬改定、事業所の取り組みでインプット、座談会でのアウトプットに対して今後も、居宅支援事業所の連携の大切さを感じました。

事業所の連携の必要性を改めて考えさせられた

どこの事業所でも同じような連携についての課題があったので、そもそも根本的な解決がずっと先延ばしになってしまうのかなと感じた

座談会が主体的になれて良い

こうした取り組みがあることは心強かったです

グループワークはとてもよかったですと思います

連携についてはとても必要な点だと感じていたので、当社でももっと他事業とかかわっていきたいと思う

みなさんの意見を聞き反省が多かった

初めての参加でしたが、各事業所の行動援護の困難が見えて今後の参考になりました

初めて参加させていただき、やはりまだまだ行動援護という職業が浸透してないとの事なので、もっと広げてほしいと思います

他事業所の方と話しげできたことが新鮮で良かったです

座談会で他事業所の抱えている課題や工夫について知ることができ、つながりをもっと強化して、日々の仕事の空き時間を見つけて、同じく利用されている利用者についての話し合いや悩みについて話し合える場があれば良いかと感じました

他の事業所の話を聞く機会はありませんので参加して良かったと思います

内容が広く浅いような気がしました。セッションあたりの時間がもう少し長い方が良いと思います

相談室から見た行動援護、民間から見た福祉、という異なる視点のお話が聞けたのは良かった。実際に支援しているわけではない事業所もチーム会議に参加しているというのは興味深かった

他事業所の方のお話がきけて勉強になりました

杉田様の講話が勉強になりました

質問② 次回の研修への要望

GWはもう少し時間としてはどうか。ネットワークに参加している事業所内で連携した実践があれば、その実践報告。またフォローアップの実践があれば。おすすめの外出先情報交換会

札幌市から、制度説明の枠をもうけてほしい

5月での研修会から半年でどの様に制度も変わってきているのかや、違う事業所ではどの様な取り組みをしているのか等、サービスのヒントになる様な話を聞いたり教えてほしいです

相談支援事業所の具体的な役割

チームでの連携で成功していることをぜひ聞きたいです。課題の共有だけだとなんとなく重い気がします

事情？のグループがあるとおもしろい。情報交換したい

経験年数等で課題も異なると思います。初任である私には難しかったです。これに即した何か工夫を…。

困難ケースの対応等を事例と一緒に教えて頂きたい

ネットワーク作りの困難事例

制度についてもっと学びたいです

ヘルパー不足

他事業所の実践報告をもっとききたい

質問③ 行動援護フォローアップへの希望

費用、加算、給付…財源のしっかり確保。フォローアップする方も受ける方も必要。サー提も兼務が多い。サー提がしっかりスキルアップして、事業所ヘルパーにしっかりとそれを反映させられる様に「仕組み」としてサー提がフリーに動けるための財源。相談室？町内会？と連携して、行動援護利用者やサポートするヘルパーの事を「知ってもらえる」機会、理解を促し「地域づくり」の役割、仕組み。基礎学習講座とOJT、それとアセスメントー計画ー実践ーモニタリングのセットOJT

サービスの同行をおこなってくれるフォローアップがほしい。その際アセスメントに重点をおく内容を中心にしてほしい

研修が終わって継続して学んでいる方に対して、学んでいてもなかなか事業所内で困っているケースをどう話して良いかを助言頂けるなら、フォローアップを大切という事を札幌市（行政）も普及、啓発してほしいです

研修や座学だけでなく、アセスメントを実際の様子を見ながら一緒に行う機会が欲しい。支援ももちろんだが、支援者として足りないところも伝えていければ

一般的な研修でなくて現場に即した研修が必要。ケースは100人いたら100通り。ケースにそったアドバイス、コンサルが必要

困難ケースや新規の事業所の行動援護への同行を行い、その場でアドバイス等をしてもらう

事業所に対してだけでなく利用者・家族・地域等、札幌市民全体にフォローして欲しい

事例検討会的なものが欲しい（特に成功例でなく、失敗例）

重度訪問介護とも連携が取れるようにしてほしい

月1回程度の頻度で勉強会があればと思います（各事業所の事例を挙げたり、制度についてなど）

行動援護の講習会の時のようなビデオをみながら支援について考えるような研修が、自分も考えながら参加できるのでいいなと思います

他事業所と交流できる機会（勉強会、事例検討会、実践報告会）などひらいてほしい

質問④ その他、ネットワークへの要望等

座談会を小規模で回数増やしてみる。事業所の若干に仕切のを手伝ってもらう、又は任せる

ヘルパーが主体の研修を今後も継続して行ってほしい

とても定期的に密に活動をしている素晴らしいネットワークとってます。これからも沢山の打ち合わせを通して私達にもアウトプット、フィードバックして下さい

個人では中々言い出しにくいことがたくさんあると思います。声をあげて伝え続けてくれることがありがたいです

できれば事前にグループ割など教えてもらえたら、もう少しちゃんと考えられたかもしれません

継続して下さい

ネットワーク作りに札幌市が中心となって市民に啓発、発信して欲しい

以上